

就農者が販促会で島の農業をPR～荒廃農地解消に尽力～

松島湾内にある浦戸諸島の寒風沢島で平成29年に就農した加藤信助さんは、栽培したコメや野菜などを県内のイベントを中心に販売。島の作物のPRに繋がっている。

加藤さんは東日本大震災による津波被害を受けた農地の復旧に取り組むNPOで活動したことをきっかけに、島に移住して就農した。現在は農業のほか、市の施設管理や島の民宿でアルバイトをして収入を得ている。「当面の課題は農業収入を安定させるための販路確保だ」と話す。

加藤さんは11月29日から12月1日に東京駅で開かれる「島のめぐみ」販売会に出展し、コメなどを販売する予定だ。「貯水池が無い島では、農業用水は雨水のみ。貴重な水で作ったお米を是非食べてもらいたい」と意気込みを語る。

寒風沢島には担い手の減少により荒廃農地が多くある。それを活用するためにも、「まずは自身が農業者として成功することで、浦戸で農業をしたいという人が数人でも来てもらいたい」と思いを語った。

【記事提供】塩竈市農業委員会

自身の水田を背に加藤さん



収穫間近の稲穂

